

子ども伝統文化フェスティバル

市では、独自の伝統文化継承事業や、文化庁による伝統文化親子教室事業を実施しており、子ども達が地域に伝わる伝統文化に実際に触れ、親しみ、理解を深め、伝統文化の継承と郷土愛の醸成に取り組んでいます。

子ども伝統文化フェスティバルは、子ども達の日頃の練習成果の発表の場です。毎年多くの団体が出場しているなかで、今回は「いずみ伝統音楽保存会」の皆さんにお話を聞いてきました。



いずみ伝統音楽保存会
会長 おおたに みわこ 大谷 美和子 さん

日本の伝統楽器に触れ、豊かな感性を育ててほしいと願い、教室を開設いたしました。岡本先生の指導のもと、年長児から小学6年生までの20名が月2回、楽しく練習に励んでいます。初めて箏に触れた時は、音が出なかった子ども達も、半年ほどのレッスンで曲が弾けるようになりました。子ども達の成長した姿と、弾けるようになった時の笑顔を見ると、教室を開いて本当に良かったと実感いたします。また、全員で合わせた時の音の重なり合いの美しさなどを感じ、感動することで、日本の伝統楽器に対する興味を深めてほしいです。

○子ども達に聞きました♪



てらやま みさき 寺山 美小姫 さん

保育園から箏を続けている寺山さんは、会の中でとても上手だと評判です。弾けなかったところが弾けるようになることが嬉しい瞬間で、箏をやっていると楽しい、と話してくれました。



あべ こうへい 安部 晃平 さん

音楽が好きでピアノも弾ける安部さん。箏はお姉さんの影響で始めたそうです。箏のおもしろいところは、他の人と音を合わせたときの重なり合いや響き合いがキレイなところ、と話してくれました。

いくたりゆうこと おかもとちほこ 生田流箏教室 岡本千邦子先生の声

箏を習いますと、まず姿勢が良くなり、おじぎの仕方が身につきます。そして、指揮者がいない中で演奏するので、仲間と呼吸を合わせる感覚が身につきます。また、演奏前の準備作業が多く、特に発表会ではやるべきことが多いので、次に何をやるべきか考えることにより、心が成長します。箏を通じて学んだことを、日常生活に活かして欲しいです。

